

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介します



合田 直弘

5月2日にチャールズタウンズで行われるG1ケンタッキーダービー(d10F)へ向けた前売りで、1番人気に推されているバラディン(牡3)が今回の主役だ。今年1月末まで、米国3歳牡馬戦線の先頭を走っていたのは、トッド・プレッシャー厩舎のテッドノフィー(牡3、父イントウミストフ)だった。2歳時は4戦し、G1BCジュヴェナイル(d8・5F)など3つのG1を含む無敗の4連勝をマーク。エクリプス賞最優秀2歳牡馬に選出された同馬が、ケンタッキーダービーへ向けた前売りでも圧倒的1番人気に推されていた。

ところが1月29日、テッドノフィーが骨挫傷を発症したことを陣営が発表。本格的な調教再開まで90日間の治療期間を要するとして、3冠を全休することが明らかにした。

突如として混戦模様となった中、この原稿を書いている3月8日の段階で、ブックメーカー各社が7倍前後のオッズを提示して1番人気に支持しているのがバラディンだ。

サマーウインドエクワイン社による生産馬で、祖母がG2コティオリオンH(d8・5F)など2重賞を制したインディアという血統背景を持つバラディン。そのインディアの5番仔が、日本で走りG1安田記念(芝1600m)、G1フェブラリース(d1600m)と、芝ダート両路面で

G1を制したモズアスコットだから、バラディンはモズアスコットの甥にあたる。

父は今年の種付け料が25万ドルというトップサイヤのガンランナーで、母の父は14年から16年まで3年連続で全米リーディングの座に就いたタビットだ。タビット牡馬にガンランナーというのは、24年のG1バレイリーナ(d7F)など2つのG1を含む4つの重賞を制したソサエティと同配合だ。

バラディンは、24年のファシグタイプトン・サラトガ1歳セールに上場され、クイルモアグループとホワイトバーチファームのパートナーシップに、セツション3番目の高値となる190万ドル(当時のレートで約2億736万円)で購入された。なお現在のオーナーシップには、生産者のサマーウインドエクワイン社も加わっている。

チャド・ブラウン厩舎の一員となったバラディンは、昨年10月17日にアケダクトで行われたメイドン(d8F)でデビュー。前半は好位を奔走した同馬は、残り4F付近で先頭へ。しかし、前半6番手から追い込んだ1番人気のレネゲイドが、バラディンを頭差交わしてゴール。ところが、ゴール前でレネゲイドがバラディンに接触したとして降着処分となり、2着入線のバラディンが繰り上がりで勝利を手にした。

続いてバラディンは、12月6日と同じくアケダクトで行われたG2レムゼンS(d9F)に出走。前半3番手で競馬をした同馬は、直線残り1Fで先頭に立ち、前走で先着を許したレネゲイドに、ここでは2馬身差をつけて優勝。重賞初制覇を果たした。

バラディンの今季始動戦となったのが、2月14日にフェアグラウンズで行われたG2リズンスターS(d9F)だった。前半4番手を追走した同馬は、向こう正面でジワつと進出し、2番手で直線へ。逃げたチップホンチヨを捉えるのに若干でこずつたが、ゴール前で1/2馬身交わして3連勝を飾った。

次走は、4月4日にキーンランドで行われるG1ブルーグラスS(d9F)の予定。

その1週間前の3月28日にガルフストリームパークで行われるG1フロリダダービー(d9F)に、デビュー2戦目から3連勝でG3ホーリールS(d8・5F)を制したニアリー(牡3、父ノットジスタイム)や、G2フォントノンオヴユースS(d8・5F)の1・2着馬コマンドメント(牡3、父イントウミストフ)、チーフワラビー(牡3、父コンステイティューション)らが出走予定。

この2競走で、ケンタッキーダービーの勢力分布がかなり明確になりそうである。